# 日本旅行協定旅館ホテル連盟 総会記念対談

# 地域の課題解決へ、連携を一層密に

## 地域誘客の新たな仕組み創る
## 若い世代中心に会社と一体で

3年ぶりの〝リアル総会〟開催を前に、固い握手を交わす両氏

**小谷野**　今までは、ゴールデンルートを代表する都市部および著名な観光地に集中したり、コンベンション施設が整備されている等の滞在条件が最優先されていた。

今後はいかに、地域の持つ魅力に気付くことができるか、そしてそれを磨き上げ、新たなデスティネーションとして海外に訴えかけることができるか。地域や行政と連動し、そのような新たな地域誘客の仕組みを創ることと、何よりわれわれ社員のスキルアップが必要だ。

**桑島**　コロナ禍も4年目。今年こそ収束するよう期待したい。コロナはゴールデンウイーク明けに「5類」になる。マスク着用も注意点があるものの3月中旬には個人判断になる。日本も世界に合わせてウィズコロナにかじを切った。その意味でわれわれはもう一度原点に返り、頑張る年だと認識している。まだ2019年のレベルには達しないかもしれないが、その近くまでいくのではないかと踏んでいる。

われわれは感染症と上手に向き合うことを学習した。これからは人流が止まることはない。今までとは違う。今年を観光の「復活元年」にしたい。旅連もそれに向けて頑張る。

海外のお客さまはこれからだが、航空路線が再開され、飛行機の便数が増えれば必ず戻る。戻りは意外に早いと見る。今、ニセコに海外のスキー客が多く来ている。新千歳空港にもかなりの人がいる。私の地元も海外のお客さまが少しずつ増えてきた。大きなトランクを持って道路を歩いている。ようやく戻ってきてくれたと、感謝の思いで見ている。

――まだ航空運賃が高く、比較的富裕層のお客さんが多いのでは。

**桑島**　露天風呂付き客室を利用されているお客さまが多く、今言われた通りかもしれない。われわれとしては大歓迎だ。

――業界は人手不足、「ゼロゼロ融資」の返済など、新たな問題を抱えている。

**桑島**　融資については日本旅館協会、全旅連など業界団体で要請活動を行っているが、なかなか先が見えない。自社の経営について、あまり表に出したくないところもあるだろうが、ここは包み隠さず、われわれはこれだけの負債があるのだという実態を国会議員の先生方に知っていただく必要がある。対応が遅れると今年でも休館、廃業に追い込まれる施設がまだ出てくる。

――会社の今年1年の取り組みは。

**小谷野**　先ほど申し上げた新しい中期経営計画の推進。事業領域をブラッシュアップし、実効性を担保する。ツーリズム、ソリューションの二大事業で機能をしっかり発揮し、地域の社会課題の解決を図る。

さらにこの先、未来を見据え、社会に求められる課題に対し、先手を打っていく。日本旅行は伝統的な会社だが、将来に向けてしっかり手を打っていると、旅連の皆さまにも感じてもらえるようにしたい。

具体的にはDX（デジタルトランスフォーメーション）などの領域だ。コロナ禍で変化した人々のライフスタイルや価値観の変化に対応できるサービスの在り方に変革していく。

先ほど来、話に出ているSDGsも取り組みを深化させる。カーボンオフセット対応のプランも利用が拡大してきた。お客さまの考え方も常にアップデートされている。とにかく売れれば良いという従来の発想ではなく、社会課題にもしっかり向き合うという発想に転換できているかが問われる。旅連の皆さまと協働で創り上げてきたSDGsの取り組みも、早急に具現化し社会に提供していきたい。

コロナ禍において従来の旅行業の良しあしを客観的に学ぶことができたように感じている。足元では企業としての生き残りをかけた状況が続く一方、将来に向けた先行的な挑戦をどこまでやりきれるか。旅連の後継者世代にも「日本旅行と付き合ってたらプラスになるんじゃないか」と言われるように。さらにわが社の若い社員にも、この会社で働くことに手応えと誇りを感じてもらえるよう、力強く推進したい。

――日旅連の今年は。

**桑島**　日本旅行と連携し、宿泊増売を図る。これが絶対の使命だ。方法論は変わっても、基本は変わらない。

今までと同じ方法にコロナ禍で学んだこと、昨今の重点課題を加味する。若い世代がこれから中心になり、事業を進めていくが、単なる今までの延長線上で進めるのではなく知恵を出してほしい。

日旅連には営業推進委員会（営推）という若いメンバーたちの組織がある。彼らはみんな燃えている。自由闊達に日本旅行の人たちと意見を言い合い、法人、個人、訪日の各分野で実績を積み上げている。委員会に参加していない人から「この委員会なら入りたい」という声もあるそうだ。私はこの営推が日旅連という組織が評価されている大きな要因の一つだと思っている。

日本旅行は大きな組織改正を行ったが、われわれの姿勢は変わらない。コミュニケーションを密にし、共に歩んでいく。

私自身は日旅連の役員になって30年近くになる。日本旅行という会社の良さをよく知っているつもりだ。決して派手ではないが、足腰が強く、物事に堅実に取り組んでいる。そうでなければ100年以上も歴史が続くわけがない。

コロナ禍でここ数年は思ったように事業ができなかったが、今年は環境も改善され、定率会費収入も一定の回復が見込まれることから、事業の再活性のための新たな予算を立てている。大きな事業の一つであるセールスマンとの商談会「ワークショップ」もリアルで開催する予定だ。

――最後に会社から旅連へ、旅連から会社へそれぞれメッセージを。

**小谷野**　ウィンウィンの関係をさらに強固なものにしたい。

われわれの能力をフルに発揮して、地域のポテンシャルを高めるとともに、問題解決を図る。旅連を含めた地域の皆さまのご期待に沿えるよう、今後も進めていきたい。

**桑島**　この3年間、旅連が大変なときに物心両面で支援を頂いた。本当に感謝している。

今の日本旅行の社員の皆さまは、みんな明るい顔をしている。われわれと同じ苦労をされたと思うが、そのような中でも先を見越した取り組みをされ、手応えを感じておられるのだろう。

私は今期を持って会長を退任するが、これからも会社と一体になって、さまざまな示唆を頂きながら事業を進めていくことを期待している。

3面から続く

# さらなる連携を

## 北海道支部連合会
## 誘客取り組み「勝負の年」

大江友広会長

日頃より日本旅行グループ並びに連盟会員の皆さまからの多大なるご協力に心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスが猛威を振るい、早3年がたちました。前年に引き続き新型コロナウイルスの影響が残り、依然として2019年以前の状況には遠い1年ではありましたが、全国旅行支援の再開や外国人観光客の受け入れ緩和など、少しずつ明るい話題が見えてきた2022年だったと感じます。

さて、北海道支部連合会では観光・運輸の皆さまと共同で運営する「北海道赤い風船会」において、リモートとリアルを活用しながらさまざまな取り組みを行ってまいりました。昨年は「日本旅行×日旅連　SDGs共同宣言」に沿った取り組みを強化し、勉強会やワークショップなどを実施したほか、知床地区におけるサスティナブルな教育旅行コンテンツの造成に着手。また、一昨年に引き続き赤い風船の電子クーポンを活用した特典付きWeb宿泊プランも設定し、一定の効果を上げることができました。また、12年ぶりに本州へのキャラバンを実施。関東方面において北海道のPR並びにセールスを行いました。そのほか販売拡大に向けた取り組みとして、個人向けのWeb申し込み割引施策・団体向けの送客インセンティブ等も実施。日本旅行グループの皆さまの協力をいただきながら、コロナ禍でも多くの事業を実施することができました。

本年は日本ハムファイターズの新球場「エスコンフィールド北海道」の3月開業を皮切りに、4月は「G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」、そして9月には「アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット」の北海道開催など、大きなイベントが多数控えています。北海道赤い風船会ではこの2023年を誘客取り組みの勝負の年と捉え、より積極的に事業を推進してまいります。SDGsへの取り組みについてはより内容を深度化させ、継続して地域と連携したコンテンツ開発を進めてまいります。また、地域の旅行支援策の先細りも想定し、さらに魅力ある商品の開発等を通して北海道観光の魅力を再度高めてまいります。

## 東北支部連合会
## 地域の魅力掘り起こしを

髙橋明浩会長

日頃より東北支部連合会の事業活動に対して、日本旅行グループ並びに連盟会員の皆さまより多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、昨年3月に発生した福島県沖地震の際には皆さまよりご支援を賜り重ねて熱く御礼申し上げます。

2022年はコロナ禍でありながら、3年ぶりとなる夏祭りやイベントなどが復活を果たし、市民、事業者、観光客等がさまざまな工夫や取り組みにより、感染対策と経済活動を両立しながら少しずつ東北ににぎわいが戻ってきたことを実感できる年となりました。

さらに、仙台育英学園高等学校が第104回全国高等学校野球選手権大会において東北勢初となる優勝を果たしました。大旗がついに白河の関を超え、チーム一丸となり日本一をつかんだその姿は、東北全体に大きな感動と希望を与えてくれました。

また東北への修学旅行の受け入れが大幅に増加し、コロナ禍前の2019年比の119%と一定の団体宿泊券実績を上げることができました。これもひとえに皆さまのご支援の賜物と重ねて御礼申し上げます。

さて、本年は地域の魅力の掘り起こしと商品化を推進するとともに、サステナブル・ツーリズム等を意識した事業展開に努めてまいります。

個人誘客事業として、昨年より実施しておりますNic施設等と連携し「東北おもてなしクーポン付き宿泊プラン」を継続設定致します。幅広いお客さまへのサービスの提供、施設の情報発信、新たな顧客層を獲得するため、本年は年間設定し、誘客機会の創出につなげていきます。

また、各地区会を中心にオリジナル商品の造成にも力を入れてまいります。

団体誘客事業として、日本旅行グループとの強固な関係づくりが重要と捉え、行政と協力し、一般団体およびインバウンド担当者向けの現地研修および商談会を実施致します。

学生団体誘客に対し、SDGsと連動した探究型教育旅行プログラムをメインとした現地研修を実施致します。会員と共に持続可能な観光への取り組みを進めてまいります。

仙台空港の国際線再開やG7仙台科学技術大臣会合をはじめ、地域経済が前向きに動きだすとともに、長引くコロナ禍や物価高騰などの環境変化を乗り越え、会員が果敢に変化に挑む年になることと存じます。旧来の枠にとらわれず、安心・安全に配慮し、常に柔軟に対応することが重要と捉え、東北6県が一丸となり東北の誘客に取り組んでまいります。

今後もコロナウイルス感染症への注意が欠かせない日々が続くかと思いますが皆さまとご家族の健康を心よりご祈念申し上げます。

日本旅行グループとして、本年は「地域の社会課題の解決」に総力を上げて取り組みをされると伺っています。私どももこの取り組みに呼応し、地域と密着した観光誘客の課題解決に協力してまいりたいと考えております。そのためにも、地域のブロック会などを軸とした、日本旅行北海道の地域支店の皆さまとの協力・連携も不可欠と考えます。

北海道支部連合会は日本旅行と進む方向を共にし、さらなる誘客強化を目指します。会員の皆さまには引き続き活動へのご協力をお願い致します。

最後になりますが、会員の皆さま、日本旅行グループにとりまして今年1年が幸多き年になりますよう祈念申し上げます。

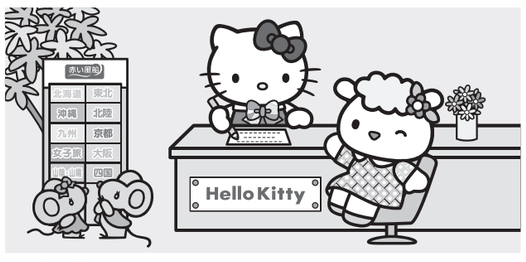

自分らしく生きる女性のための旅「たびーら」、
西日本の魅力を再発見する旅のご提案「JRで行く西への旅」、
子供たちの健やかな成長を願う子供たちだけの自然体験「トムソーヤクラブ」。

株式会社日本旅行
宣伝部長ハローキティ
HELLO KITTY
©2023 SANRIO CO., LTD.
APPROVAL NO. L636560

日本旅行
NIPPON TRAVEL AGENCY

お客様に選んでいただける特徴ある旅をご提供し続ける日本旅行の更なる挑戦です。

赤い風船




それは、西にある。
DISCOVER WEST

Japanese Beauty Hokuriku

皆様の日頃のお心遣いに感謝申し上げます。
これからもお客様に喜んでいただける
国内旅行をご提案してまいります。

女子旅といえば“たびーら”！

旅好きな女の子のための旅特集[たびーら]

女子旅といえば「たびーら」！読者モデルや日本旅行の女子社員がコースを厳選し自信をもっておすすめする「日本全国女子旅モデルコース」、スイーツを楽しみながらゴルフやサイクリングなどを楽しむイベントツアーを開催する「たびーらスポーツ」が人気です。

●女子のストレス解消に効く癒しの旅を「たびーらちゃん（33歳OL）」がご紹介します。Facebookページでも情報発信していますので、ぜひご覧ください！

https:/www.nta.co.jp/tavira/
たびーら　検索

岡山・広島・山口など、西日本への旅は見どころが満載です！！
日本旅行では、JRや新幹線を利用した旅行のプランを
多数ご用意しております！

JRで行く西への旅

それは、西にある。
DISCOVER WEST

https://www.nta.co.jp/jr/shinkansen/dw2/
JRで行く西日本　検索

子供の健やかな成長を応援する旅

今年で36年目となるトムソーヤクラブは、新しい世代をになう小学生・中学生が、ツアーを通じて、自然に親しみ、自主性のある、健康で、愛情に満ちた人材に育つための活動を推進しています。

●夏休みのサマーキャンプやサマースクール、春休み・冬休みのスキーキャンプなど、小学生・中学生を対象に子供だけで行く季節毎の自然体験旅行を企画しています。

https://www.tomsawyer-club.jp/
トムソーヤクラブ　検索